

第6回水稲病害虫発生予察結果(伊豆市内)

4月下旬～5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ・ひとめぼれ等)

【稲の生育状況と栽培管理について】

幼穂の長さは5cm～20cmが確認されました。生育の早い圃場では穂ばらみ期となっており、穂ばらみ期から出穂までの期間は田んぼの水が最も必要な時期となります。この期間に水を切らずと穂が出にくくなってしまうので水が干上がらないように十分に注意してください。また早い田んぼでは7月17日頃出穂期(田んぼ内の40～50%程度穂が出た状態)を迎えることが予想されます。

【カメムシ防除】

伊豆市内では毎年カメムシの吸汁被害が多く発生しております。対策としては薬剤散布を推奨しております。



↑吸汁被害による斑点米

等級	着色米(斑点米基準)	JA買取金額(R4概算金)
1等	0.1% 1,000粒に1粒まで	11,820円 (1俵)
2等	0.3% 1,000粒に3粒まで	11,220円 (1俵)
3等	0.7% 1,000粒に7粒まで	10,200円 (1俵)

※コシヒカリの場合

粉剤を利用した防除(スタークル粉剤・トレボン粉剤)は、出穂後の穂揃期(田んぼ全体の80～90%が出穂した時期)と乳熟期で必ず2回散布が必要となります。

散布の注意点として、カメムシ類の多くは、日没から夜間に株の上側で活動するため、日中は株の下側に隠れているため薬剤がカメムシに届かない可能性があります。薬剤散布は早朝(遅くとも9時まで)もしくは夕方(17時以降)に行ってください。

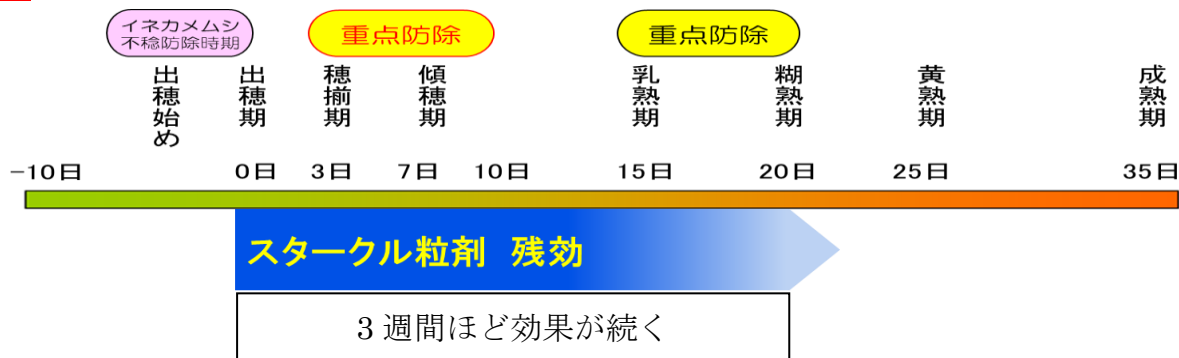
粉剤によるカメムシの防除タイミング図 薬剤：スタークル粉剤、トレボン粉剤



粒剤を利用した防除（スタークル粒剤）は、水に溶けた有効成分を植物に吸収させてカメムシの防除を行います。散布後成分が吸収されるまでに数日かかりますが、吸収された成分は3週間ほど続きます。

出穂期に1回の散布を行って下さい。 散布時の水管理は4～5日は湛水（水の深さは3cm～5cm程度）状態で管理し、散布後7日間は落水や水のかけ流しは行わないでください。

粒剤によるカメムシ防除タイミング図 薬剤：スタークル粒剤



5月中旬～下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL)

【稲の生育状況と栽培管理について】

分けつ本数が20本以上となっている田んぼは、中干しの適期となっています。中干しの期間について、日数管理ではなく田んぼの状態を見て田面に軽くヒビが入るまで行ってください。中干しについて「第3回水稻病虫害発生予察結果」に写真など載せてありますのでご覧ください。

【早生品種・中晩生品種：病虫害の発生状況】

一部の圃場で『紋枯れ病』が確認されました。紋枯れ病が進行してしまうと、倒伏しやすくなる上、養分・水分の吸収が阻害され収量や品質の低下を招きます。紋枯れ病の症状を見かけたら早期に薬剤による防除を行ってください。

薬剤名	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
オリブライト 250g 豆粒	<u>出穂 10 日前まで</u> (収穫 45 日前まで)	250g/10a	1 回	散布

紋枯れ病の症状→



J A 富士伊豆修善寺営農経済センター
担当：竹村
TEL：0558-72-4461